

## 国際連携教育に関するシンポジウム タイムスケジュール

司会： 瀬尾匡輝（茨城大学全学教育機構）

### 開会式

11:00：開会の挨拶 グエン・ティ・タイン・ニャン（ハイフォン大学 副学長）

### 発表①「日本とベトナムの地方大学をつないだキセキ（軌跡・奇跡）」

11:05～11:15：小西達也（ハイフォン大学）

ハイフォン大学の視点から、日本の大学と連携して実施する活動はどのような目的で行われ、どのような意義があるのか、これまでの茨城大学と実施してきた活動・交流を俯瞰し、発表する。

### 発表②「日本とベトナムの学生のタンデム学習の実施報告」

11:15～11:30：グエン・ティ・タイン・ヴァン（ハイフォン大学）

ハイフォン大学の日本語教育現場では、日本語学習者が日本語母語者とのコミュニケーション機会と異文化体験機会が非常に限られているという課題がある。この課題を解決すべく、2021年からハイフォン大学では協定校である茨城大学と協力して、母語が異なる者同士がペアになり、互いの言語や文化を学びあうタンデム学習を実施している。今回のシンポジウムでは、2024年春季の短期研修期間のタンデム学習の実践状況及び効果について報告する。

### 発表③「自律性の向上を目指した日本語教師養成に関する考察—地域日本語・日本文化教室実施の試みを中心に—」

11:30～11:45：チャン・ティ・ガン（ハイフォン大学）

本研究では、ベトナムにおいて初・中等教育機関で日本語教師を目指す高等教育機関の学生が、日本語教師養成課程の一環として「自律性」を向上させるために筆者が学習空間である「地域日本語・日本文化教室」活動を作成し、それに参加した7名のベトナム人学生を分析対象として、インタビュー調査を実施し、質的研究を行った。その結果、「地域日本語・日本文化教室」活動の企画、実施・運営、振り返りを繰り返し経験したことによるベトナム人学生意識変容のプロセスを分析し、自律性がどのように向上するかを明らかにしてきた。また、それに関わっている要因にはどんなものがあるか考察を行った。分析や考察結果をもとに、今後、ベトナムにおける日本語教師養成課程の質向上のために、どのような取り組みが必要なのかを表す教育的な示唆として、自律性の向上を目指す日本語教師養成過程のモデルケースを提案することができた。

#### **発表④「中上級クラス日本文学史における演劇活動の報告」**

11:45～12:00 : グエン・ティ・ホン・ゴック (ダナン大学外国語大学) \*ゲストスピーカー

演劇活動は、言葉を場面と結びつけ、学ぶことができる同時、日本の文化的な要素を総合的に学ぶことができる。そして、チームワークを通して、お互いに助け合いながら学ぶ、協調性が育むこともできると言えよう。本研究では、「日本文学史」における演技劇活動を実施してから、実践後のアンケート調査を行い、どんな結果がでるか分析・考察する。

#### **発表①～④に対する質疑応答**

12:00～12:10

#### **休憩**

12:10～12:15

#### **2024 年度茨城大学短期海外研修ハイフオンプログラム概要**

12:15～12:25 : ホ・ティ・ホアイ・ナム (ハイフオン大学)

#### **ハイフオンから生中継インタビュー**

12:25～12:55 : インタビュアー : ホ・ティ・ホアイ・ナム、インタビュイー : 2024 年短期海外研修参加者

今まで4年間で茨城大学と協働で、いろいろな活動を実施し、両大学の協力ではある程度成果が出ている。そのなかで、短期海外研修の活動を課題として、2021年にオンラインで始まってきて、2023年から対面でできるようになってからは、両大学の学生交流及び海外の地方都市における日系企業、日本語、日本文化がどんな影響を与えているかを理解する機会になった。今回のシンポジウムでは、短期海外研修の活動を振り返り、どのように改善するかということを目指して、2024年短期海外研修生にインタビューする。

#### **閉会式**

9:55～10:00 : 閉会の挨拶 池田庸子 (茨城大学グローバル教育センター長)